

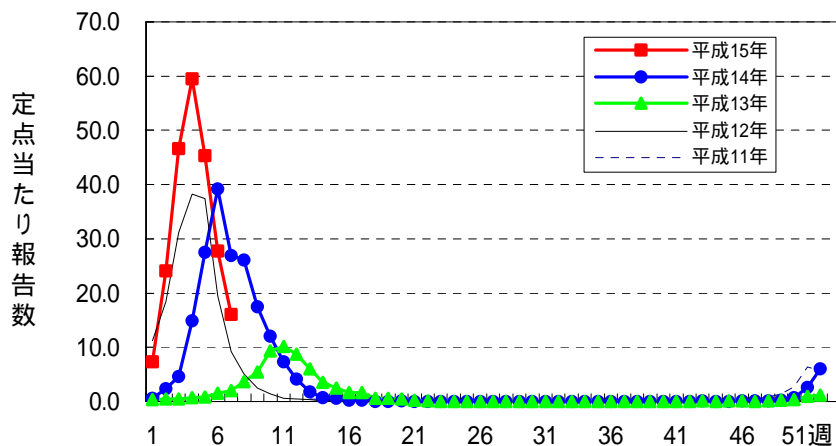
## 流行状況

### インフルエンザ

定点当たりの報告数は 16.0 (前週 27.7) と第 4 週のピークを過ぎ更に減少していますが、報告数は多く注意が必要です。

インフルエンザの予防には手洗いやうがい、十分な栄養と休養が大切です。また、早期にインフルエンザウイルス薬を使用することによって多くの場合治療可能ですので、もし、インフルエンザを発病したことが疑われる場合 (具体的には突然の上気道炎症状、38 を越える高熱、全身倦怠感等の全身症状等) には、すぐに医療機関を受診されることをお勧めします。

### インフルエンザ



### 感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は 7.0 (前週 6.0) とやや増加

感染症についての説明及びグラフ総覧については、  
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> )

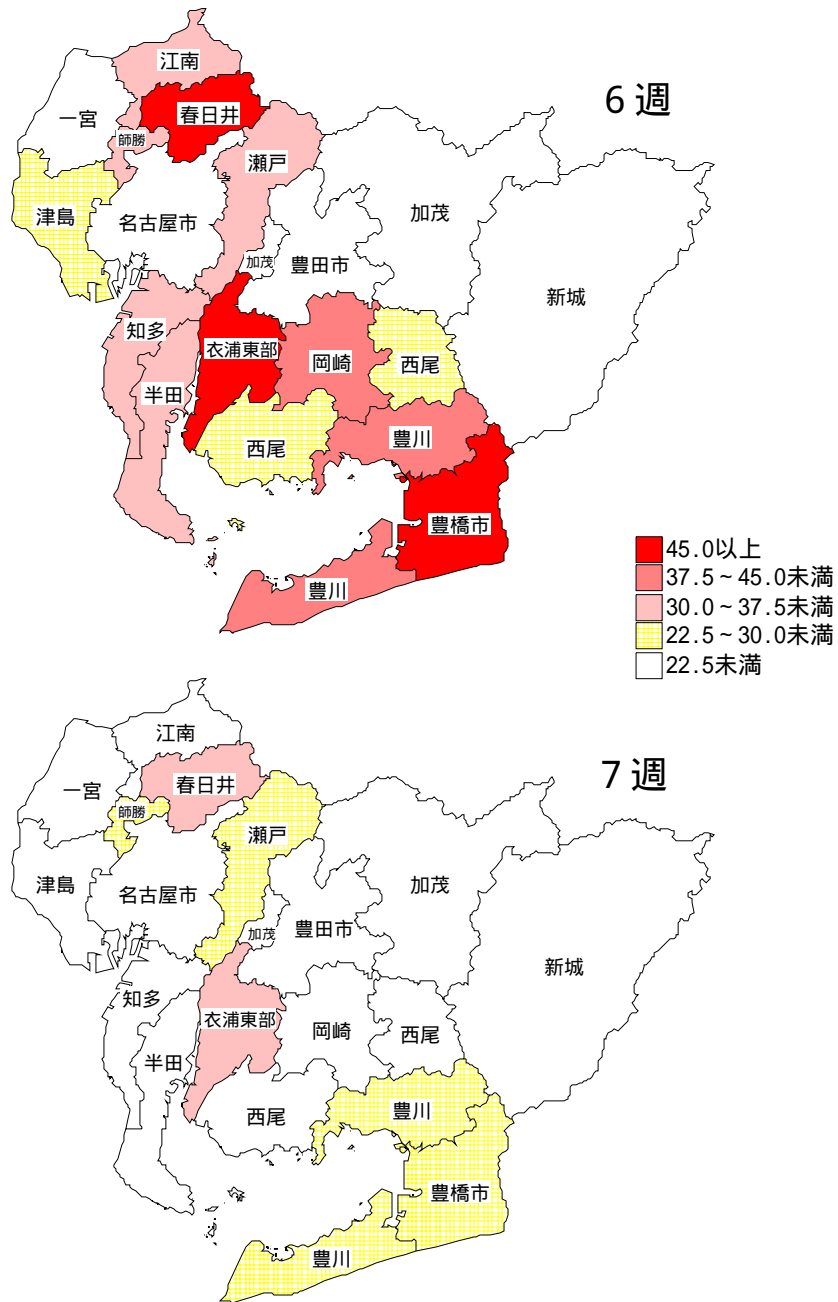
### 厚生労働省インフルエンザ対策キャンペーンホームページ

インフルエンザQ & A、キャンペーンポスターなどがダウンロードできます。

<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>



# インフルエンザの保健所別報告数の推移（名古屋市含む）



	6週	定点 当たり	7週	定点 当たり		6週	定点 当たり	7週	定点 当たり
名古屋市	1118	15.97	610	8.71	岡崎	459	41.73	213	19.36
瀬戸	282	31.33	218	24.22	衣浦東部	588	53.45	331	30.09
津島	171	24.43	84	12.00	西尾	138	27.60	59	11.80
師勝	140	35.00	104	26.00	豊田市	157	19.63	145	18.13
一宮	340	21.25	190	11.88	加茂	43	14.33	33	11.00
春日井	468	52.00	275	30.56	豊橋市	367	45.88	229	28.63
江南	188	31.33	90	15.00	豊川	361	40.11	238	26.44
半田	183	30.50	87	14.50	新城	27	13.50	13	6.50
知多	258	36.86	139	19.86					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生警報の開始基準値は定点当たり 30 人、継続基準値は 10 人です。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 1歳男、25歳女、36歳女、

病原性大腸菌 O6 56歳女

病原性大腸菌 O18 8カ月女

病原性大腸菌 O25 6歳男

病原性大腸菌 O124 7歳女

インフルエンザが落ち着いたのかな。今の時点では、判断できません。

【尾西市 城後小児科】

インフルエンザは、減少傾向

【一宮市 後藤小児科医院】

インフルエンザ 15人（うち1人B型）ワクチン接種者 2回5人、1回1人

感染性胃腸炎目立ちます。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

インフルエンザはA型のみです。

【一宮市 平谷小児科】

陽性者は全てインフルエンザA型です。

ノロウイルス<sup>\*1</sup>感染者の増加傾向

【一宮市 医療法人かすがい内科】

\*1 ノロウイルス：感染性胃腸炎の原因ウイルスの1つ

インフルエンザA型の流行はほぼ終息した様です。B型の流行はまだ見られていません。

アデノウイルス様の症状を呈するものの中に、インフル AB クイック擬陽性が多い印象をもちます。

水様下痢と嘔吐を主症状とする胃腸炎がはじまりました。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ 少なくなってきました。

感染性胃腸炎の流行続いています。

手足口病 1名ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

インフルエンザはA型のみ31例でした。うち、ワクチン接種者 7例

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

1歳女、1歳9カ月女 ロタウイルス<sup>\*2</sup>(+)でした。

【春日町 丹羽医院】

\*2 ロタウイルス：感染性胃腸炎の病原体の一つで、多くは乳幼児に冬季白色便性下痢症を起こす。主な症状は、嘔吐と水溶性の下痢（酸臭のある白色便）である。

---

流行性耳下腺炎 27 歳男

【師勝町 師勝クリニック】

インフルエンザ 17 名中 B 型 1 名

【師勝町 田中クリニック】

---

## 尾張東部地区

---

インフルエンザは少なくなりましたが、B 型 3 例ありました。

B 型インフルエンザと溶連菌感染の合併ありました（6 歳男）。

マイコプラズマ肺炎 2 例（9 歳男、4 歳女）

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ B 型 1 歳男

【瀬戸市 公立陶生病院】

インフルエンザ減少傾向です。（B 型が 1 例ありましたが他はすべて A 型でした。幼児、成人が多く学童はわずかでした。）

水痘増加傾向

咽頭結膜熱家族内感染例あり。

今週は突発性発疹症が目立ちました。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

インフルエンザ流行つづいています。（全例 A 型）

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

今週はインフルエンザ B も 3 名みられました。

インフルエンザ A は減少してきました。

【春日井市 かちがわ北病院】

インフルエンザは全例 A 型でした。

【春日井市 竹内医院】

インフルエンザは下火です。

ロタ胃腸炎と細気管支炎がやや増加

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザは激減していますが、B がちらほら見られます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

水痘のワクチン後、水痘にかかりました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザ減少（A 型 6 名、B 型 2 名）

【南知多町 医療法人大岩医院】

---

---

## 西三河地区

---

ロタウイルス抗原(+) 1歳男3名、4歳女1名

カンピロバクター腸炎 4歳男1名

インフルエンザA型 2名

インフルエンザB型 4名

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

インフルエンザA型 22名

インフルエンザB型 6名

【豊田市 田中小児科医院】

ロタウイルス(+) 7ヵ月男、1歳男、2歳女

マイコプラズマ肺炎 3歳男

溶連菌感染症 3歳男

水痘ポツポツ

【豊田市 医療法人やふそ小児科】

3歳男 カンピロ+病原性大腸菌 O111

1歳女 ロタウイルス

【岡崎市 医療法人深田小児科】

4歳女 病原大腸菌O146

14歳男 病原大腸菌O18

14歳男 病原大腸菌O1

インフルエンザは減少(B型優位となってきました。)

【岡崎市 花田こどもクリニック】

2歳男、4歳男、5歳男 病原性大腸菌O6 VT(-)

1歳男、4歳女、5歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)

B型インフルエンザ 5例

【岡崎市 にいのみ小児科】

インフルエンザ減少 A型10例、B型3例

1歳4ヵ月男 病原大腸菌 O1

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザA型6名 2名家族内発症

インフルABクイック A(+)

【岡崎市 永坂内科医院】

インフルエンザA型21名

【岡崎市 村山医院】

アデノチェック陽性2名

インフルエンザが激減

感染性胃腸炎は多い。

【知立市 宮谷クリニック】

インフルエンザは減少

感染性胃腸炎(特に嘔吐)が増加

【西尾市 やすい小児科】

---

---

インフルエンザは激減（A型7人、B型4人）しましたが、感染性胃腸炎が増加傾向です。

【西尾市 山岸クリニック】

病原性大腸菌O8 VT（-）

【幸田町 とみた小児科】

ロタウイルス腸炎多発しています。  
インフルエンザB型2例ありました。

【三好町 三好丘こどもクリニック】

インフルエンザが激減しました。

【三好町 三好町民病院】

---

## 東三河地区

---

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とロタウイルス胃腸炎が増えてきました。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

インフルエンザはピークの4割に減少しました。

B型が増加しています。（約50%）

胃腸炎が増加中

【豊橋市 野村小児科】

インフルエンザワクチン接種児にB型インフルエンザ罹患あり。

【田原町 かわせ小児科】

---

## 1～3類感染症の発生状況（愛知県）

---

発生報告なし

---

## 全数把握の4類感染症の発生状況（愛知県）

---

レジオネラ症1例

## 第5週(15年1月27日~2月2日)の4類感染症 (全国)

定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比べて特別に多い疾患はなかったが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では富山県(2.9)と福井県(2.9)からの報告が多い。風疹は第1週から微増を続ける傾向にあり、特に岡山県(0.3)からの報告は前週の7倍みられた。急性脳炎(日本脳炎を除く)は沖縄県からの定点当たり報告数が0.6であり、1999年4月からの週当たり報告数でみると3番目に多い。細菌性髄膜炎の定点当たり報告数も増加し、0.02となった。感染性胃腸炎と咽頭結膜熱の定点当たり報告数は大きな変化はないが、前者は福岡県(15.1)と宮崎県(14.9)をはじめ12都道府県から10.0以上の報告があり、後者は秋田県(0.6)からの報告が多い。インフルエンザは今年初めて、前週に比較して定点当たり報告数が減少(38.7から35.0)した。依然としてすべての都道府県で定点当たり報告数は2桁であるが、西日本を中心に7割の都道府県で前週に比して減少し、5を超えた都道府県は沖縄県(62.2)を始め5都道府県へ半減した。水痘の定点当たり報告数は減少したが、沖縄県(4.8)と佐賀県(3.1)からの報告数が多い。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供 )

詳細は感染症情報センター - のホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html> ) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

病院の日溜りに蒲公英の花を見つけるようになりました。でも、まだ北風は冷たくて手袋は放せません。もう少し背骨をしゃんとして歩かなくては、と思うのですが。いつも貴重な情報を有難うございます。2月前半のまとめをお送りします。

1) 名古屋市内：城北病院渡辺先生からはインフルエンザ陽性例がピ - クをこえ、B陽性が数例、増加傾向はなく、インフルエンザに合併した胃腸炎が散見、インフルエンザ後咳が続き二次感染（肺炎・気管支炎等）が散見、RSウイルス感染症も減少、第二日赤岩佐先生からはロタウイルス腸炎が多くインフルBも発生、Aは峠をこえたようだ、千種区今枝先生からはインフルエンザぼつぼつ、感染性胃腸炎時々（細菌性1例）、三菱病院入山先生からはA型インフルエンザ29名で肺炎・脱水合併例で入院12名、溶連菌感染症4名（うち1名入院）、ロタウイルス嘔吐下痢症で入院1例、中京病院柴田先生からはインフルエンザA流行中（やや減少）でロタウイルス感染症の入院も目立つ、労災病院山田先生からはインフルA・B共に多発中で溶連菌感染症が多く、ロタウイルス腸炎、単純ヘルペスウイルス感染症、病原性大腸菌O1、O26、大同病院水野先生からはインフルエンザAの合併症はクル - プ様喉頭炎、気管支炎、胃腸炎、ワクチン未接種児で痙攣重積、意識障害ワクチン接種児では単純熱性痙攣、RSウイルスによる年少児の気管支炎、ロタウイルス腸炎、川崎病が割に多いとのお手紙でした。

2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA型インフルエンザ漸減、水痘散発、嘔吐と水様性下痢を主訴とする下痢症流行中、江南市からはインフルエンザAとロタウイルスを含むウイルス性腸炎（昭和病院西村先生、愛北病院露木先生）、常滑市民病院上田先生からはインフルエンザ、ロタウイルスを含む胃腸炎、水痘などが目立つとのお手紙でした。

3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザAは少し減少、ロタウイルス感染症少し増加、加茂病院梶田先生からはインフルエンザAが多く熱性痙攣、クル - プ、肺炎の合併が目立ちロタウイルス腸炎増加、水痘が目立つ、知立市近藤先生からは相変わらずA型インフルエンザが多く、感冒性下痢症も多い、刈谷市田和先生からはインフルエンザは急に減少、ロタウイルスを含む嘔吐下痢症増加、水痘、ムンプス、溶連菌感染症が散発中、碧南市永井先生からはインフル流行中だが峠を越した感じ、ロタウイルス感染症が目立つとのお手紙でした。有難うございました。



愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2003 年 1 月 10 日(78 巻 1/2 号)

急性呼吸器疾患。コンゴ共和国。02 年 11 月 22 日インフルエンザ様疾患が赤道地区で発生中。パスツール研で上気道からインフル A(H3N2)分離。世界各地で発生中のワクチン類似株。WHO、国境なき医師団が同国厚生省に協力、対策中。

コレラ。象牙海岸。02 年 12 月 - 03 年 1 月、70 例(死亡 15 例)。対策中。

百日咳。アフガニスタン東北部ワハン州で 115 例(死亡 17 例)。国連はヘリによるワクチン器材と抗生剤輸送を開始した。

ロタウイルスワクチン。世界の近況:接種計画は中断している。98 年 8 月、ヒトとアカゲザルのロタウイルス遺伝子組替えワクチンが開発され米国で認可を受けて接種が開始され、百万人が接種を受けたが 1 万接種あたり約 1 例腸重積が発生、中止された。WHO はウシとヒトの組替えロタウイルスなどの安全なワクチン開発を進めていて途上国を中心に第三相試験が実施されている。

旧フランス植民地におけるメジナ虫(ミジンコを中間宿主とする寄生虫感染症。生水を飲んで感染。腸で孵化した子虫は全身を回って足関節皮下に潰瘍を作り産卵する)。02 年 1 月 - 9 月のサーベイランス。ベニン、ブルキナファソ、中央アフリカ、象牙海岸、マリ、モーリタニア、ニジェール、トーゴの状況紹介。ニジェールやブルキナファソのように減少率 50%以上の国もあるが、トーゴ、ベニンのように 50%以上増加の国もある。1 月 3 日 - 9 日届出。コレラ。ベニン、ガボン、ケニア、マダガスカル、マリ、ニジェール。黄熱。セネガル。

2003 年 1 月 24 日(78 巻 4 号)

百日咳。アフガニスタン。前号報告後同国東北部で二人組 39 チームが連日 100 名ずつ地区単位でエリスロマイシン緊急投与を実施中。

黄熱。ブラジル。ブラジル厚生省へ 24 例(死亡 5 例)届出。既に WHO による対策が厚生省と共に開始されている。

ワクチン安全性委員会勧告。02 年 12 月 16 - 17 日委員会開催。MMR ワクチンと自閉症:委員会による精力的な調査では因果関係は認められず、MMR ワクチンは継続することが勧告された。不活化インフルエンザワクチンと眼気道症候群:カナダからの報告。接種後 2 - 24 時間で眼球充血、呼吸困難、咽頭痛、胸部苦悶感。中年女性に多く原因不明、現在検索が進められている。B 肝ワクチンと白血病:積極的に因果関係を認める成績はまだ得られていない。長期にわたる調査が必要。

麻疹。カンボジア。99 年 - 02 年。カンボジアにおける予防接種活動は三期に分けて実施された:00 年 12 月 - 01 年 5 月には麻疹、ポリオ、DPT で 89%。01 年 10 月 - 02 年 4 月で接種率 97%。02 年 10 月 - 03 年 4 月は大都市居住の生後 9 カ月 - 14 歳児を目標に接種。発生状況把握のため 00 年以降全国サーベイランス実施(届出の 80 - 85%が 1 - 14 歳で罹患)。ワクチン普及と共に患者数は減少している。

インフルエンザ:03 年 1 月。カナダ、エジプト、香港、イタリア:A(H3N2)と B(共にワクチン類似)、フィンランド:B 型。







